2024.04

直床遮音マット
オトトロ ファン・オクロック用（SPCフローリング）
施工説明書

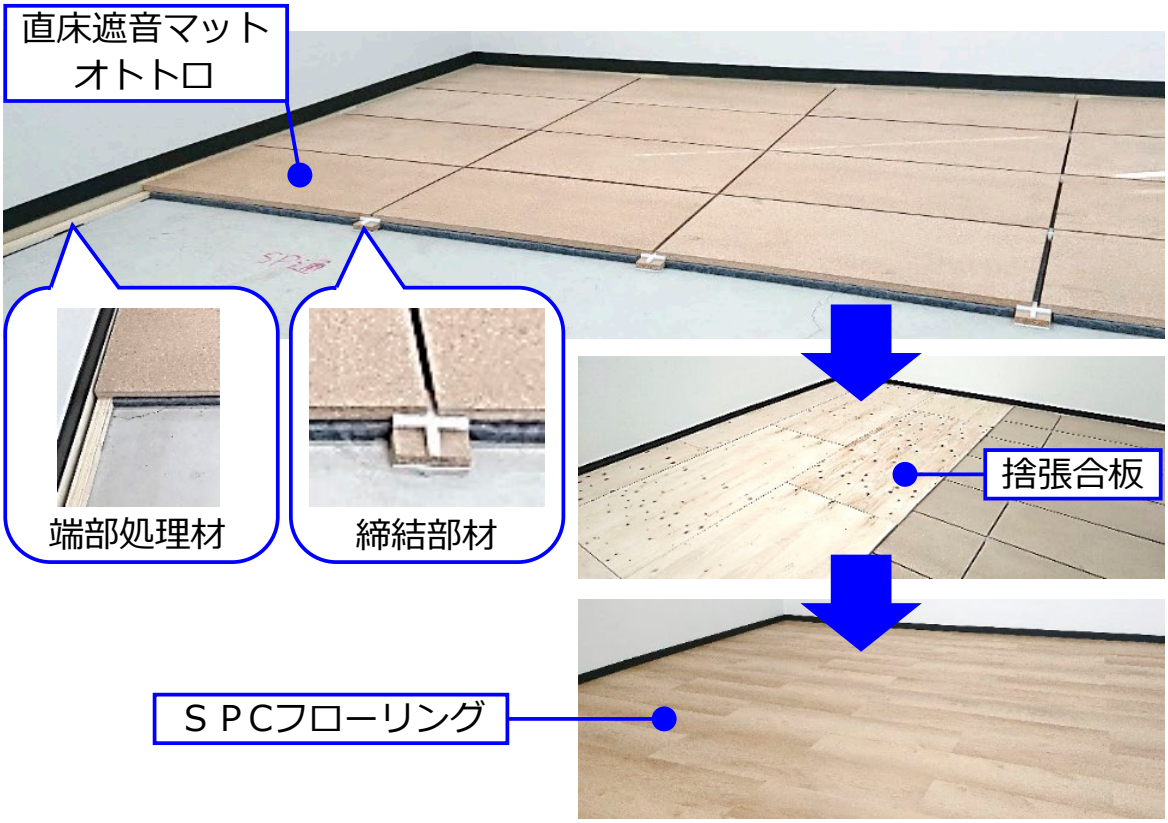
※施工の際には下記の施工要領に従って、正しい製品のお取扱いをお願いします。
※製品の遮音性能等級は、第三者試験機関における一定条件下の試験を元に導出された値であり、
実際の現場の遮音性能を保証するものではありません。
実際の現場における遮音性能はスラブ厚、面積、端部の納まり方等の諸条件により異なります。

○ 製品概要

『直床遮音マット オトトロ』はファン・オクロック（SPCフローリング）専用のユニット型遮音床下地材です。
マット（製品本体）を締結部材で連結して敷き並べます。

○ 必要な道具

電動ノコギリ（丸鋸）／電動ドライバー（インパクトドライバー）／カッター／スケール／ほうき／ちりとり

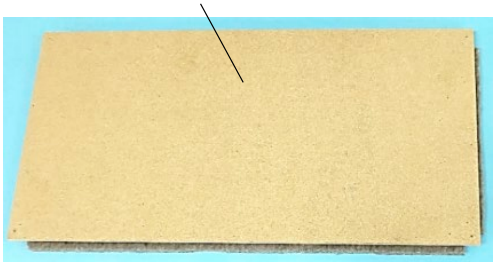


○ 製品仕様

・マット

（厚さ）40mm　×　（幅）455mm　×　（長さ）910mm

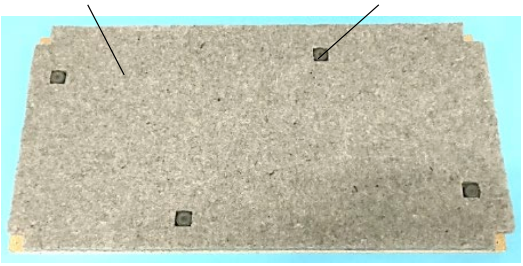
パーティクルボード（厚さ20　mm）



マット表面

吸音断熱材（厚さ20　mm）　防振ゴム（厚さ20　mm）

４個



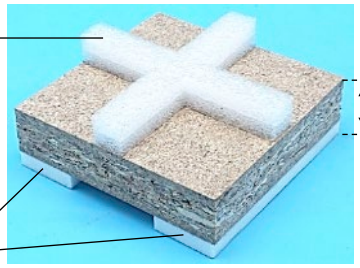
マット裏面

・締結部材（30個／箱）※別売

（厚さ）20mm　×　（幅）70mm　×　（長さ）70mm

緩衝材

幅　１０　mm



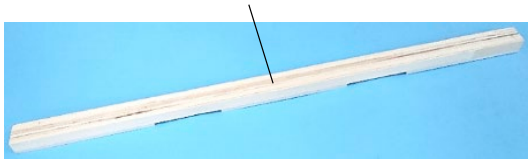
２０　mm

緩衝材

・ 端部処理材（緩衝材付き際根太：15本／箱）※別売

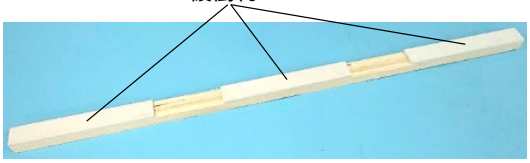
（厚さ）20mm　×　（幅）30mm　×　（長さ）800mm

ＬＶＬ



端部処理材表面

緩衝材



端部処理材裏面

・ 間隙緩衝材（40個／シート、粘着剤付き）※端部処理材同梱：１シート／箱

（厚さ）10mm　×　（幅）10mm　×　（長さ）10mm

・ 捨張合板（※必須）

（厚さ）12mm 以上を推奨

○ 施工手順

1．施工を始める前に

・本製品は高さの調整ができません。
スラブの不陸が1000mmにつき3mm以上（±1.5mm以上）ある場合は調整をお願いします。

・スラブの上にゴミがないように清掃してください。

・マットの枚数 / 締結部材の個数 / 端部処理材の本数を確認してください。

・部材に過度の変形や損傷がないことを確認してください。

・SPCフローリングの方向を確認してください。
マットの長手方向がSPCフローリングの長手方向と同じ向きになる様に敷いてください。

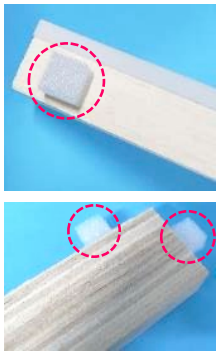
2．直床遮音マット オトトロの敷き並べ

端部処理材の設置

① 敷設する床素面の周囲（壁）に沿って端部処理材を設置してください。

端部処理材の端に間隙緩衝材を取り付け、壁-端部処理材間に10mmの間隙を確保します。

端部処理材裏面の緩衝材に接着剤を塗布し、スラブと接着施工してください。
（※推奨接着剤：ウレタン樹脂系）



間隙緩衝材

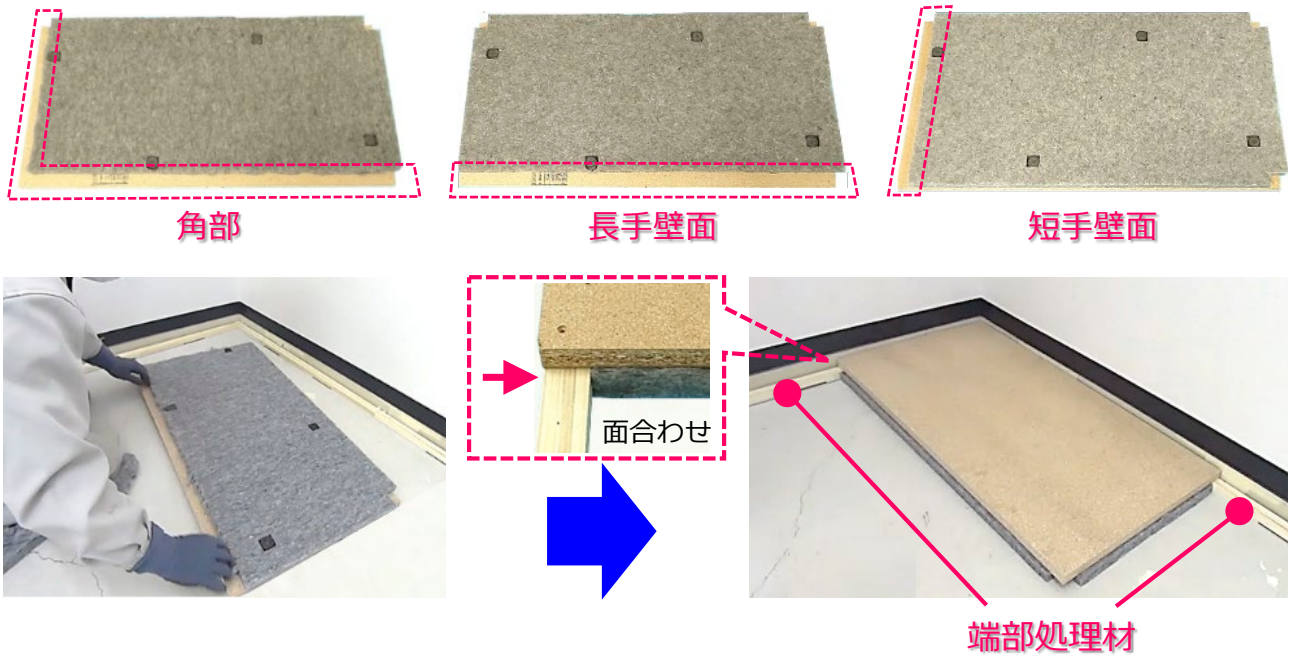
接着剤塗布

マットの仮並べ

② 敷きはじめ角部及び、壁際に設置するマットは端部処理材と干渉する部位の吸音断熱材をスリットに沿って剥ぎ取ってください。

剥ぎ取って露出したパーティクルボード（30mm幅分）を端部処理材の上に被せ、端部処理材の端部とマットの端部が面合わせになるように設置してください。

＜吸音断熱材剥ぎ取り部位＞



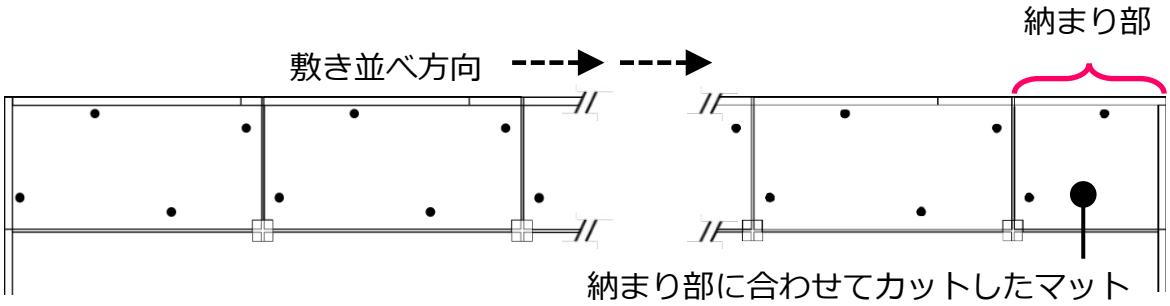
③ 締結部材を設置しながらマットを敷き並べてください。

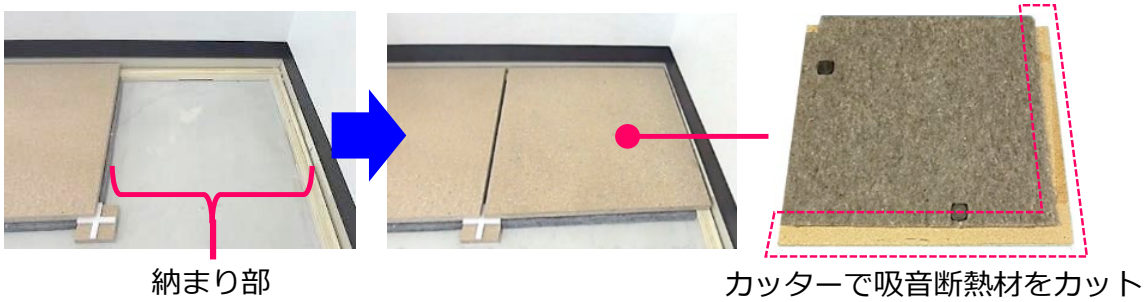
マットを敷き並べる際、マット角部の吸音断熱材の切り欠き部に合わせて締結部材をはめ込みます。
締結部材の格子状緩衝材により、マット間に10mmの間隙が確保されます。

締結部材によってマット同士に
10 mmの隙間が確保できます

納まり部の施工（マットのカット）

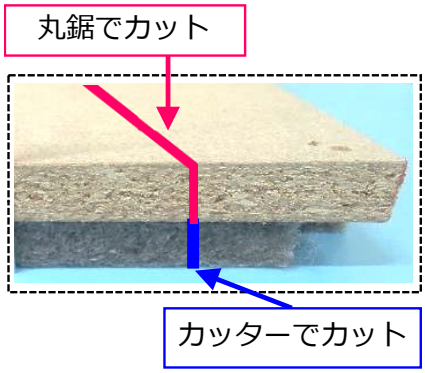
④ 納まり部に合わせてマットをカットし、納まり部の端部処理材とラップする部位の吸音断熱材を30mm幅分切り取ってください。





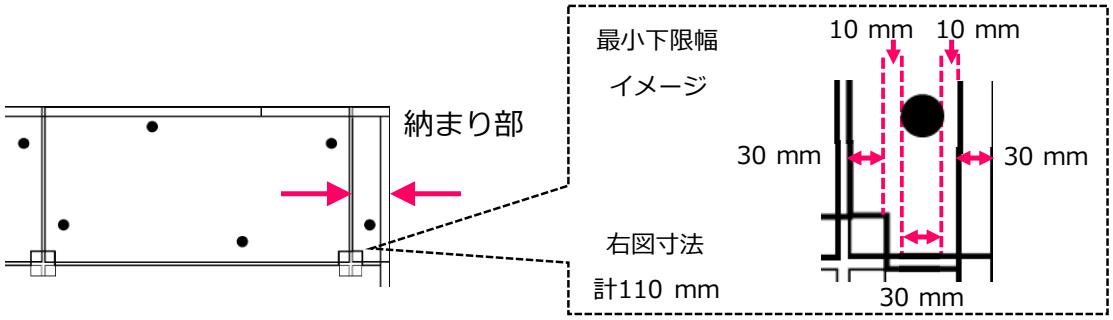
※ マットのカット

パーティクルボード部分のみ丸鋸でカットした後、吸音断熱材をカッターでカットしていただくと加工が簡単です。



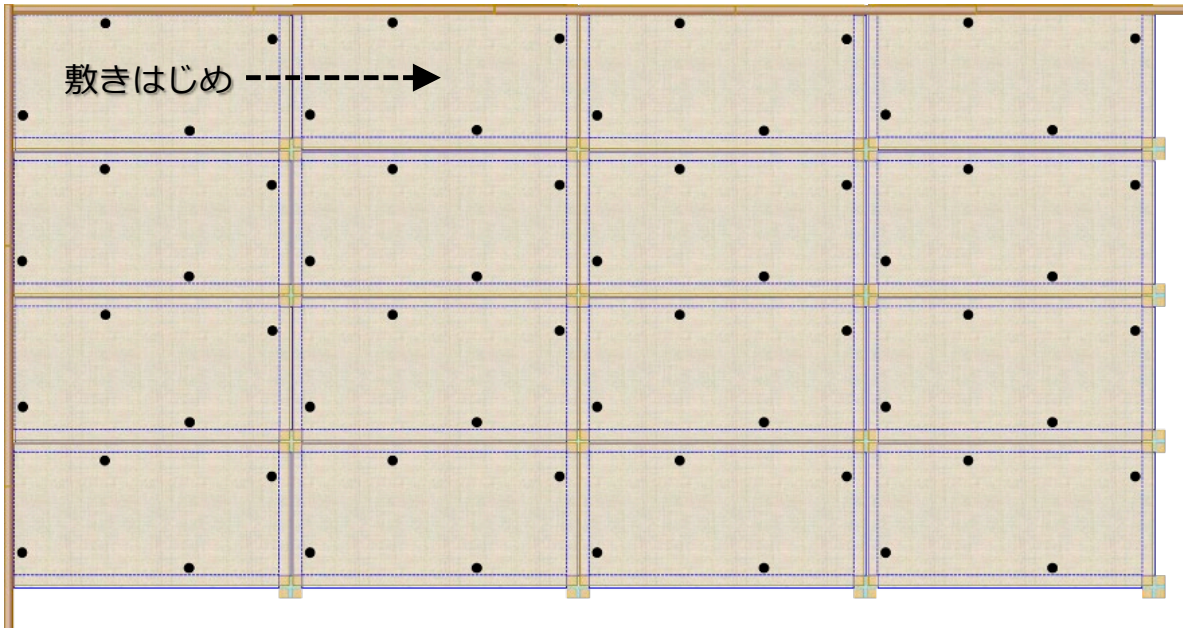
※ 納まり部（張り終わり）のマットの寸法の目安

防振ゴムが少なくとも1つは残る寸法幅を確保してください。（推奨寸法幅：110mm以上）
110mm幅以下になる場合は前の行・列のマットをカットするなどして調整することを推奨します。



十分な寸法幅が確保されていない場合、沈み込みの発生や端部処理材と防振ゴム、締結部材が干渉し、床鳴りの原因となります。

○ 敷き並べ図



※ マットは壁際角部(向かって左手奥)から敷き並べを開始してください。

※ 下地への防振ゴム，締結部材の接着は不要です。

マットの敷き並べイメージ

マットの連結（ビス固定）

⑤ マット端部は300mm以下のピッチで端部処理材とビス固定してください。
（目安：マット短手3箇所 / マット長手4箇所）
マットの四隅と締結部材をビスで固定してください。

長手端部

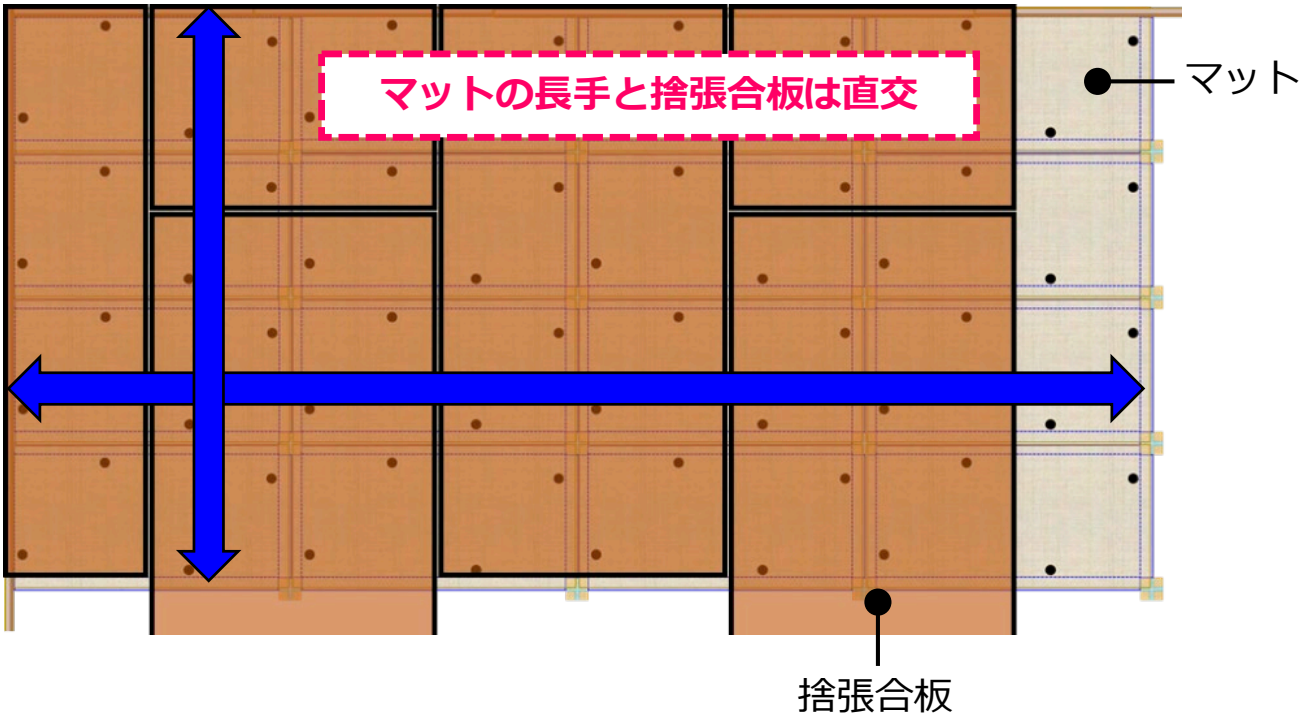
短手端部

マット四隅

※ 長さ25mm以上のスクリュー釘またはビスを使用してください。

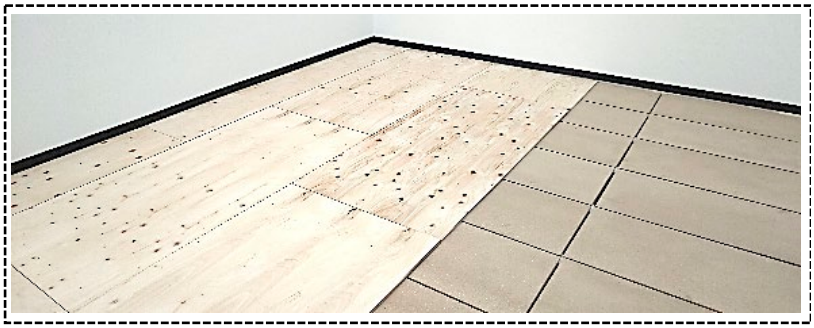
3. 捨張合板の敷設

捨張合板はマットの長手方向に対し、直交方向にレンガ張りで敷いてください。
捨張合板は厚さ12mm以上のものを推奨します。



捨張合板は壁から10mmの間隙を確保し、マットの端部と面合わせになるように敷いてください。
また、マットの目地と捨張合板の目地が合わないように敷いてください。
捨張合板の継ぎ目は突き付けずに3～5mm程度の間隙を確保してください。

※ 捨張合板とマットは長さ25mm以上のスクリュー釘またはビスを使用し、
300mm以下のピッチで固定してください。

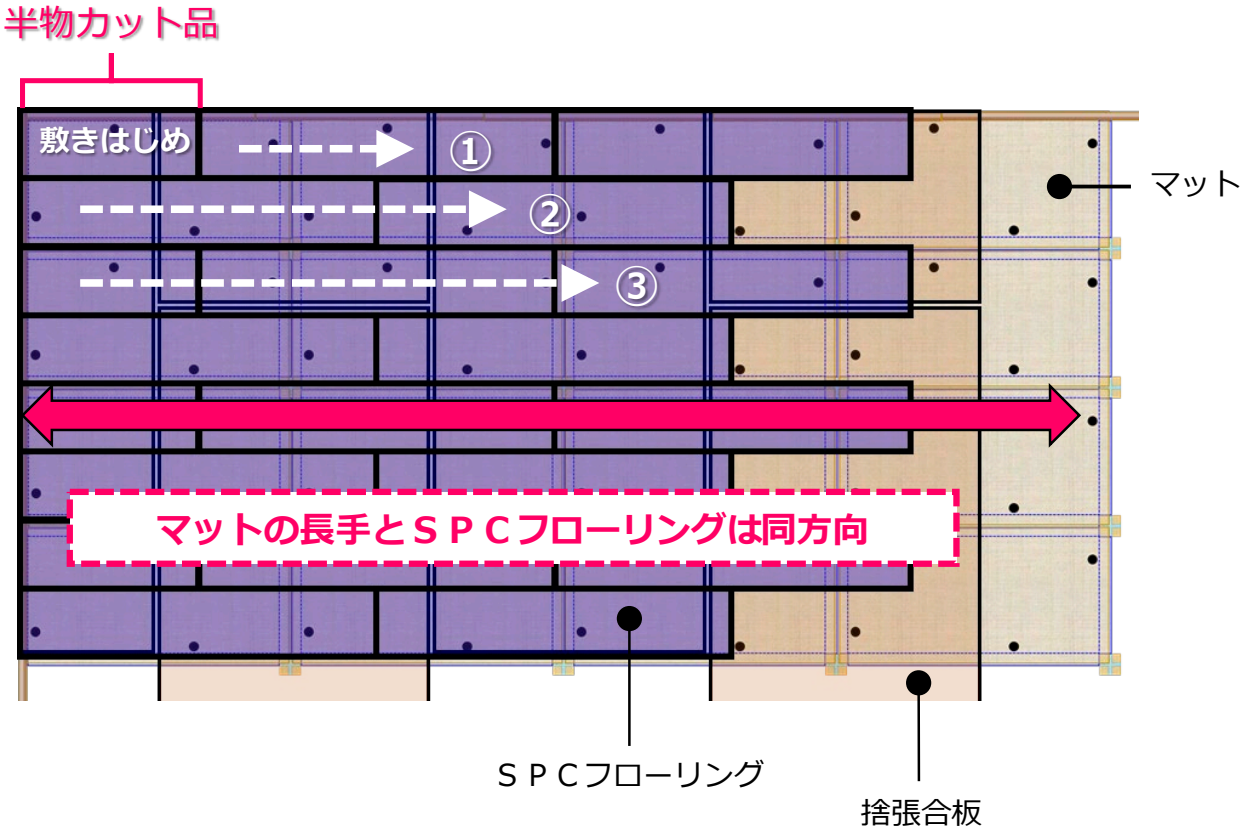


捨張合板敷設イメージ

4. SPC フローリングの敷設

SPCフローリングはマットの長手方向と同じ向き（捨張合板と直交方向）に敷いてください。
敷設の際、壁から5mmの間隙を確保してください。

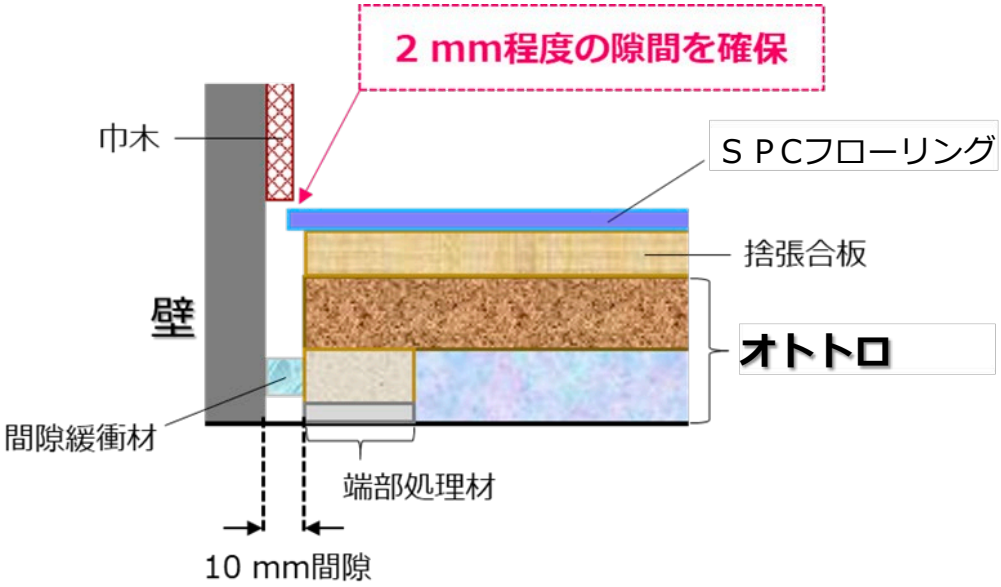
敷きはじめには半物(現場カット)を用い、レンガ張りになるよう壁際角部(向かって左手奥) から一行づつ敷いていってください。
※ 奇数列の敷きはじめは半物(現場カット)を用います。



ＳＰＣフローリング施工イメージ

※ 壁際の施工

巾木はSPCフローリングと垂直方向に2mm程度の間隙を確保して取り付けてください。



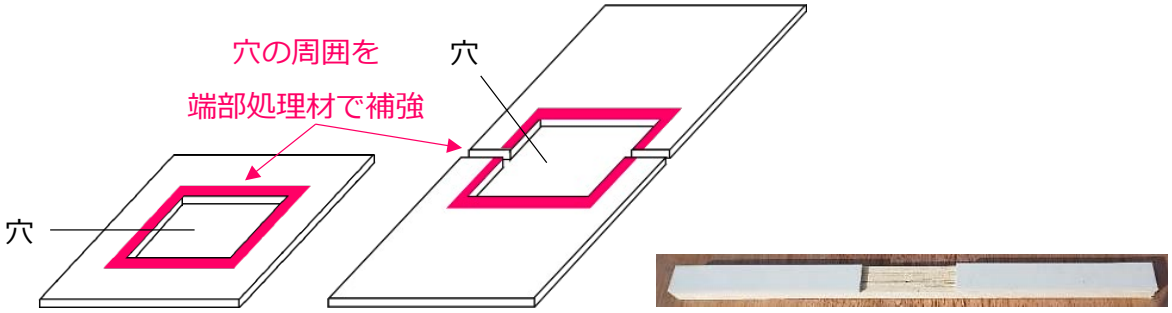
○ マット（床下）に穴や切り欠きを設ける場合の処置

マット(床下)に穴や切り欠きを設けるとその部位の強度が低下するため、カットした端部処理材を設置し、補強する必要があります。

設置する端部処理材は穴や切り欠きの大きさ，補強部位の長さに合わせ、現場にてカットしてください。

カットした端部処理材は穴や切り欠きの周囲に追加してください。

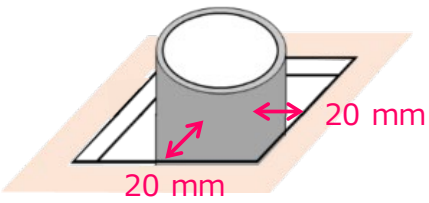
追加に際し、端部処理材とラップする部位の吸音断熱材を30mm幅分切り取ってからビスで固定してください。



○ 床下配管の立上がり部の処置

配管周りは配管とマットが触れないよう20mm程度の間隙を設けてください。

※マットと配管が触れると床鳴りの原因になります。



○ 床下に配線 / 配管を通す場合の処置

床下に配線/配管を通す場合、通す配線/配管の経の大きさに注意してください。

配線/配管の経が床下空間（20mm）に対して十分に小さく、設置後にマットと接触しないか事前に確認してください。

通す場合、通す箇所の吸音断熱材をカッターでカットし、取り除いてから設置してください。
マットと配線/配管が触れると床鳴りの原因になります。

○ その他の注意事項

※ マットは水に濡らさないようにしてください。
また、長時間湿気の多い場所、もしくは直射日光の当たる場所に放置しないでください。
破損・たわみ・突き上げ・床鳴り等の原因となります。

※ マットの上に資材を仮置をする場合は静かに置いてください。
また、1ヶ所にまとめず、分散させて置いてください。
最終的に捨張合板とSPCフローリングを施工することで強度が発揮されますので、施工途中の段階で強い衝撃を与えたり、過度の重量物(200Kg/㎡以上)を置かないでください。
まとめて仮置きをした場合、床のたわみが戻るまで時間がかかり、捨張合板及び、SPCフローリングの施工に支障が出る可能性があります。

※ マットを敷いた後にマット同士の隙間を確認してください。
隙間がない場合、広すぎる場合、締結部材が正確に設置されていない可能性があるので確認し調整してください。

※ マットの施工後、及び捨張合板の施工後は、必ず床鳴りが発生していないか確認してください。
床鳴りが発生している場合は、原因を調べ修繕してから次の工程へ進んでください。

※ 床暖房の施工方法はそれぞれのメーカー様にお問い合わせください。

※ 特殊な環境で使用する場合は事前にご相談ください。

プレイリーホームズ株式会社
〒461-0004　愛知県名古屋市東区葵3丁目7-14 IMYビル7階　TEL: 052-930-7855　FAX: 052-930-7856